



ROTARY CLUB OF OMIYA WEEKLY



2010-11 RI テーマ



会長：浅野 仁
副会長：中川高志
副会長：遠藤省吾
幹事：徳山義行
クラブ会報担当：田中康之
発行日：11月18日(木)

No. 2103 2010年11月10日(水) 第2745例会

2010-11 大宮ロータリークラブテーマ 「知行合一」

会長あいさつ

皆様こんにちは。ガバナー公式訪問が終わりました。無事に終わり、ほっとしています。会員の皆様には多数出席いただきありがとうございました。今回はガバナーの希望で第3グループの公式訪問の中では順番が最後でした。ガバナーよりじっくり指導をいただくことができて良かったと思っています。ガバナーから頂いたアドバイスを少しずつ実行していきたいと思っています。具体的には、会員数の増加、地区役員にもっと出てみてはというご提案、会長賞への挑戦、各委員会へのアドバイスなど多くの点についてご指導を頂きました。井橋吉一ガバナーには大宮ロータリークラブをご理解していただけたと確信しています。

さて、クリスマス例会についてですが、今年度の55周年プログラムのクリスマス例会は荒井理事にお願いしました。おかげさまで素晴らしいプログラムが出来上がりました。クリスマス例会ではクオリティの高い、つまり上質のプログラムをお楽しみいただきたいと思います。私が注目して欲しいと思っ

ているのは宝塚の公演もそうですが、サービスについても注目していただきたいと思います。それぞれ受けるサービスの質の違いに時々驚かされることがあります。私はマネジメントの質とかサービスの質にも注目したいと思っています。サービスには①モノのサービス②技術のサービス、そして最も大事なことは③心のサービスです。私たちが何を望んでいるか、顧客のニーズに応えることができるか。これらのサービスを楽しんでいただくのもひとつの例会だと思えます。ぜひ、大宮ロータリークラブのクリスマス例会をお楽しみください。

今日は宝塚という上質のサービスを楽しむ方法を教えていただけるということで楽しみにしてきました。素敵なゲストをお招きしています。のちほど卓話をよろしくお願いします。本日は第1例会でセレモニーが多いためご挨拶は簡単にさせていただきます。本日は卓話をお楽しみください。

第55代 大宮ロータリークラブ会長

浅野 仁

Happy Birthday

11

誕生日祝



- 13 植田一人 会員
- 14 飯野耕司 会員
- 18 荒井 涉 会員
- 19 篠田雅業 会員
- 20 柳澤達維 会員

Wedding Anniversary

11

結婚記念日祝



- 9 岩井良彦 会員
- 13 江本尚浩 会員
- 15 星野秀敏 会員
- 16 兼杉涼二 会員
- 20 齋藤守毅 会員
- 27 寺田 裕 会員



ロータリー財団寄付 マルチプル・ポールハリス・フェロー・ピンの贈呈

- 永嶋良一 会員 (7回) 遠藤省吾 会員 (7回)
- 中川高志 会員 (5回) 飯野耕司 会員 (4回)
- 星野秀敏 会員 (3回) 江本尚浩 会員 (3回)
- 齋藤守毅 会員 (1回)

ベネファクター 認証状・認証ピンの贈呈 徳山義行 幹事

ロータリーリーダーシップ研究会 パートⅡ修了証の授与

遠藤省吾 会員 田中康之 会員

■大宮アルディージャ 前代表 渡邊誠吾 会員

皆様方には大宮アルディージャ入場者数増しの件で、大変ご心配ご迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。お客様に対して裏切り行為をしてしまいましたので、私も知らなかったではすまない立場でありますので、責任をとりまして辞任を致します。実際に行っていた者も解任をして既にクラブを離れています。これからは新しい鈴木新代表にお客様の信頼が再び得られるよう、クリーンで開かれたクラブ運営を目指してまいります。



■大宮アルディージャ 鈴木 茂新代表

皆様、こんにちは。先ほど市長にもご挨拶に伺ったのですが、市長からも地域に密着したクリーンなクラブであって欲しいとお話がありました。全くその通りだと思います。今回の不祥事の件では、渡邊が責任をとって代表を降りましたが、渡邊前代表の地域に親しまれる、そしてロータリークラブに親しまれる温かい地元に着したクラブ運営を私共は引き継いでいかなければならないと思っています。私共はチームの成績も大事ですが、地元とのお付き合いも大事だと考えています。ぜひ、皆様にはチームの応援と共にクラブの発展をぜひいっしょにサポートしていただきたいと思っています。私も微力ながら地元密着型のクラブを目指して頑張りますのでぜひよろしくお願いいたします。ちなみに私は見沼区在住です。



■米山奨学生 李 凱君

報道では日中関係の緊張が伝えられていますが、大学では一切そういった緊張感はありません。勉強と研究に頑張っています。これからもよろしくお願いします。



委員会報告

■奉仕プロジェクト委員会 進藤博司 委員長

11月24日(水)事務局にてユネスコ寺子屋運動の自治会配布回収袋の作業を行いますので委員会の皆様はご協力をお願いいたします。終了後、18:00より東晶大飯店で委員会を行います。出席をお願いいたします。

■ロータリーの友・クラブ会報委員会 田中康之 委員長

月初めです。ロータリーの友11月号の紹介をさせていただきます。今月はロータリー財団月間です。横組み6ページには第2770地区の北 清治パストガバナーの“ロータリー財団「未来の夢計画」とは?”という記事が掲載されています。今まで大きな変更がなく進められてきたロータリー財団の補助金制度ですが、時代の変遷に取り残されないよう、またロータリアンの多様なニーズに応えていくために新しい補助金制度である未来の夢計画がスタートするという内容になっております。第2770地区は2013-2014年度の全面的導入に先立ち、本年度より3年間試験的導入地区としてパイロット地区に選ばれています。補助金の資金調達の流れであったり新たなプログラムがスタートするという内容が書かれています。新補助金制度を理解するためにぜひご一読お願いいたします。



■アラ100ゴルフ会 中川高志 会長

11月28日(日)にアラ100ゴルフ会を行います。幹事が多忙のため、詳細は後ほどFAX致します。みなさん、奮ってご参加下さい。夕方にはワインで楽しんでいただくゴルフとワインの会です。よろしくお願いいたします。



私は宝塚歌劇団を退団してから、宝塚音楽学校を受験するための予備校「東京アートスクール」を設立しまして、今までに70人以上宝塚へ合格者を送り出しています。

宝塚歌劇団に入るには宝塚音楽学校を卒業しなければなりません。宝塚歌劇団は花、月、雪、星、宙の5組がございまして、それぞれ80名編成です。そのなかに男役と女役のトップスターがいますが、今までに7人のトップスターを育てました。鮎ゆうきさん(元雪組 娘役)白城あやかさん(元星組 娘役)春野寿美礼さん(元花組 男役)舞風りらさん(元雪組 娘役)ふづき美世さん(元花組 娘役)大和悠河さん(元宙組 男役)愛原実花さん(元雪組 娘役)の7人です。

星組の公演をご覧になれるそうですが、その公演の2番手の風稀(おうき)かなめも私の生徒です。次期トップスター候補と言われています。

私が東京アートスクールを開いたきっかけは、宝塚歌劇団を辞めたらシャンソンのディナーショーをやりたいと思っていました。そのためには芸術の仕事がないと場所を選べないということで、クラシックバレエ、ジャズダンス、声楽の指導を毎日行っています。それで年に2回7月と12月にディナーショーを行っています。年に2回のディナーショー活動を始めて20年以上になります。いいショーをやり続けていきたいと思い、バンド、音響、照明すべて自分のチームを持って毎回ミーティングをしながらこだわってショーを創っています。シャンソンや歌に興味がありましたらクリスマス12月24日(金)セルリアンタワー東急ホテルでディナーショーを行いますのでよろしかったらお越し下さい。

今日はご質問をいただいております形式で進めていきたいと思っております。ちなみに宝塚音楽学校の倍率は、約1,200名の方が受験して40名の合格ですので20数倍と言われています。どのお仕事もそうだと思いますが、レッスンだけではだめで、技術が全てではなくミーティングを非常に大切にしています。夜中の2時とか3時でも生徒がわかるまで話し合いをするという特殊な方法をとっています。ですからすごく時間のかかる作業ですが、生徒達はそういう風に育って残っていただけるので、何事もそうですが簡単に済ませると結果は出せないと思っていますので、時間と手間暇をかけて、誠実にをモットーにアートスクールもディナーショーもいいものを創りたいという思いで続けております。

Q: 宝塚音楽学校の受験資格は? (橋本和久会員)

A: 15歳から18歳までです。(中3~高3まで) 15歳で受かった子も18歳で受かった子も4歳の年の差がありますが、その時期に受かった人は皆同期生ということになります。ですから15歳で入って下の学年の子が18歳で入った場合でも上級生ということになります。上級生にはすべて敬語でお話をする、すべて譲るということを徹底して指導されます。上下関係が大変厳しい世界ですので忍耐力がある、我慢する力が強いと思います。

Q: 宝塚音楽学校の生徒さんは独特の歩き方、しぐさのような気がするのですがいつもあのようになっていますか? (中川高志副会長)

A: 同期生同士は普通に会話をしていますが、上級生がそばにいらしゃるときにはきちんと敬語でお話します。例えば宝塚は阪急電車が走っていますが、私が宝塚音楽学校に居たときは下級生は阪急電車の進行方向の一番後ろの車両に乗らなければいけないという決まりがありました。上級生よりも前に乗ってはいけなくて、もちろんエレベーターも上級生の方がいらしたら、降りて譲って階段で上がるように教えられました。上級生を見かけた場合も相手が気が付かなくても一礼をして、すれちがうときにももう一度一礼をするように指導されました。それは今も変わっていないと思います。今どき15歳から18歳の子をそのように厳しく指導してくれる組織はないと思います。とても厳しいということもいいことだと思います。それは音楽学校の1年間だけです。音楽学校は1年目が予科生、2年目が本科生となります。本科生が予科生を指導する立場にあるので、敬



語や礼儀作法を徹底的に指導を受けて劇団に上がっていきます。ですからラインダンスやいろんな群舞が揃うんですね。



Q: 男役とか女役というのは自分で望めるんですか? (川島利雄会員)

A: 自分で望めますが、男役の場合身長が170cm前後、娘役は身長が160cm前後の子が娘役となります。



Q: 5つの組があるそうですが、それによって特色はあるのですか? (鈴木俊一会員)

A: トップによってその組のカラーが決まるのであってその都度変わります。5組への振り分けは平等に振り分けていますのでバランス良く振り分けています。



Q: 毎年40人の方が合格して2年間の学校生活を送った後劇団に入られるということは毎年そのぐらいの方が退団されるのですか? また退団される年齢は? 現役で結構お年の方も入らしたと思うのですが…? (渋谷理俊会員)

A: はい。毎年40人ぐらいは退団者がおります。今年は40名入学して5名ついて来なくて35名です。今の子どもたちは恵まれた環境に育っていますから、上下関係に耐えられないという子も中にはいます。何を言われても聞く体勢でなければならぬと思います。今の子はやはりひ弱なんです。劇団に入ったあとはいつ辞めても自由だということ、もう一つは契約です。必要な人は契約をしてもらえます。ですから辞める年齢もばらばらです。上の年齢の方でもお父さん役、お母さん役として必要があれば契約をしてもらえます。

Q: 男役と娘役では声の質がぜんぜん違うと思いますが、声色についてお願いします。

A: 男役は低くて女役が高いというのは音楽学校時代に振り分けられて、それによって芝居の練習があります。1組80名もいますからひとことでもセリフがなくて辞めていく人の方が多いです。殆どが歌もセリフもなくして群舞だけです。セリフがもらえたり歌の役をもらえたりというのはほんの一握りです。入るのも大変ですが、そこから上がっていくのは本人の努力と運といういろいろなことすべてが兼ね備わって生まれるものだと思います。

宝塚だからということではなく、どの会社も、どの職業もいっしょだと思えます。生徒を育てるときも、素直であること、明るいこと、前向きであること、これは宝塚の面接でもチェックされることですが、宝塚だからではなくどの社会でも必要とされることだと思います。



Q: 以前は宝塚や日劇やSKDがありました。宝塚は今もありますが日劇やSKDは何故なくなってしまったのでしょうか? (荒井 渉会員)

A: 日劇、SKD、OSKもショーというのは非常にお金がかかります。宝塚の場合は阪急電鉄がバックでしたから続きましたが、経済的問題で企業も手を引きまして、OSKは今個人の方がバックアップして継続している状態です。中身の問題ではなく支援する側の経済的問題になります。

Q: 男役、娘役でいいと思われる方はいらっしゃいますか?

A: 皆さん、一長一短だと思います。どこの世界でもそうですが全て揃った方はなかなかいらっしゃらないと思います。歌がうまかったり芝居がうまかったりと好みの問題になります。そのために5組あってそれぞれにトップスターがいます。



Q: ちょっとゲスな話になりますが、我々は選手に結構な年俵を払っていますが、宝塚のトップの方というのはどのぐらいの年取になりますか? (大宮アルディージャ 鈴木 茂新代表)

A: 宝塚はお嬢様学校といわれていますが、家庭環境も必要なんです。生徒には一応お給料は支払われていますが、お給料といえるほどの額ではありません。トップの人は別の手当が出ますがそれでも辞めてから外部出演するときのギャラよりは低いと思います。タレントではなく宝塚の場合はまだまだ学ぶ身だということですから。

Q: 先ほどのお話でミーティングをされるということでしたがどんなことをされていますか? (遠藤省吾副会長)

A: 取り組む姿勢です。何事もそうですが本人の意識がはっきりしなければいけないので明確な意識をはっきりさせるという意識改革です。



そこが一番大変です。それでこそ初めて歌や踊りが伸びていきます。意識なくしてどんな技術を教えても空回りしたり限界が出てきます。音楽学校は倍率が20倍以上ですから並の技術では入れません。技術はもちろんですがそれを抜きでその子の個性がなければいけません。個性というのはその子の考え方が出ます。だからミーティングをして明確に意識改革をします。その作業が結構大変ですが、それをしたから7人のトップスターが育っているのだと思います。単に合格者数を追うのではなく、いい子を育てたいと思っています。受験校の中でも東京アートスクールは少人数で有名です。生徒が10人ほどしかいません。多くの生徒さんをとっているところもありますが、細かく生徒さんを見たいと思っています。だからといって入学するのにテストがあるという事ではありません。ただレッスンを休んだり、やる気がない時に私ごと話して中途半葉にやるのはやめましょうと、結果はわからないけれども結果に辿り着くまでの過程を大事にしたいからということ伝えて



ています。実は昨日も普通のオープンクラスの日ですが、ルールを守らないという問題児がおりまして…ルールは守らなきゃいけない、当たり前のことなんです。今の子供というのはわからないからというルールを破ります。ですから授業が8時半に終わり10時半まで受験クラスの子と2時間みっちり全員でミーティングをしました。何故ルールを破るのか。それによってどう思うのか。自分の意見をハッキリ言いなさいと指導しています。建前では見抜かれるので常に本音であるように話し合いを大切にしています。ビジネスに徹しようと思ったら見て見ぬふりをするのは簡単です。人間は生きている時間は限られています。どんなに長生きしたいと思っても頑張っても教えられる年齢は限られています。だからその限られた年齢の中で自分ができることを精一杯やりたいと思っています。ただ教えるだけは他の学校に任せて、私は私のやり方で、いい生徒を育てたいと思っています。ですからディナーショーも、ただ歌いたいからやるのではなく何をしたいのかということを明確



にやっていきたいと思っています。情性で指導するのではなく私が納得のいくように教えたいと思っています。

人を指導するというの、人をコントロールするということなのでなかなか自分の思いどおりにならないことが多々あります。そのために年に3回、原点に還るためにニューヨークヘリフレッシュの旅に出かけています。

宝塚を観るのは難しいものではなく、現実ではない世界が宝塚の良さなので、フラットな気持ちで観て頂きたいと思っています。きれいな子がたくさんいますから、男性こそ観るべきだと思います。現実にはない美しさ、華やかさが宝塚の魅力だと思います。宝塚の生徒はタカラジェンヌと呼ばれて妖精だといわれています。生身の人間じゃなくて妖精が出ている舞台をぜひご覧頂きたいと思っています。

(紹介者: 橋本和久会員)